

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和7年度病虫害発生予察特殊報第1号について（送付）

鹿児島県が設置しているウリミバエ等侵入警戒トラップの複数地域において、セグロウリミバエの誘殺が認められたことから、特殊報第1号を発表したので、送付します。また、疑義成虫を認めたら、病虫害防除所等の関係機関に連絡してください。

なお、本情報は、病虫害防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujos/ho/index.html>）にも掲載しています。

病虫害発生予察 特殊報第1号

1 病虫害名 セグロウリミバエ *Bactrocera tau* (Walker)

2 確認の経緯

鹿児島県が設置しているウリミバエ等侵入警戒トラップにおいて、令和7年3月17日以降、伊仙町、与論町、知名町でセグロウリミバエ疑義成虫が誘殺され、門司植物防疫所が同定した結果、いずれも本種と確認された。

本県での本種の確認は初めて。なお、現時点では県内他地域での誘殺は確認されていない。

3 本種の特徴

(1) 被害

雌成虫が寄主果実に産卵管を差し込み、産卵する。それにより産卵孔付近が壊死して果実の腐敗を引き起こしたり、幼虫が果実内部を食害することによって、商品価値が著しく低下するとされている。

(2) 形態

成虫（図1）は体長8～9mmで、頭部は黄褐色で触角下方に1対の楕円形の黒色斑がある（図2）。胸背部は全体的に黒褐色で、3本の黄色縦帯がある（図3）。腹部は黄褐色で、第2及び第3節背板に沿った黒状の帯状斑があり、第3～5節背板の正中線上に黒色の縦状斑がある（図4）。翅の斑紋は前縁帯の頂端に半円形の黒斑があるが、近縁種のミスジミバエ（在来種であり、作物への被害はほとんどない）と異なり、中肘横脈に斑紋はない（図5）。卵は白か黄白色で、幅0.2mm、長さ0.8mmである。幼虫は成長すると体長7.5～9.0mm、幅1.0～1.5mmである。

(3) 寄主植物

主な寄主はウリ科（キュウリ、スイカ、カボチャ、メロン、トウガン、ニガウリ、ヘチマ等）。その他、ナス科（トマト、ピーマン、トウガラシ等）、パッションフルーツ、スモモ、パパイヤ、ドラゴンフルーツ、グアバ、インゲン等にも寄生する。

(4) 生態

幼虫は果実内で発育し、老熟すると果実から脱出して土中で蛹化する。成虫の寿命は6ヶ月以上とされる（気温により異なる）。

(5) 分布

海外では、朝鮮半島を除くアジア全域に広く分布する。国内では、平成10年及び15年に沖縄県石垣市でトラップへの誘殺が確認されたほか、令和6年3月以降、主に沖縄本島でトラップへの誘殺、家庭菜園や栽培管理が放棄されたほ場のウリ科果実等への寄生が確認されている。

4 防除対策

- (1) ウリ科等の摘果した果実や収穫残さ等は野外に放置せず、地中深くに埋めるか、丈夫なビニール袋に入れ、ガムテープ等でしっかり密封し、1か月程度放置してから処分する。また、家庭菜園等の不要な果実は、放置せず早急に処分する。
- (2) 施設栽培では、側面、天窓、出入口に目合い1.6mm以下の防虫ネットを設置し、出入口は二重カーテンにする。また、被覆ビニール及びネット等の破損部分は直ちに補修する。
- (3) ほ場周辺のウリ科等の野生寄主植物は除去する。

5 参考文献

- 沖縄県病害虫防除技術センター（2024）：令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号
- 沖縄県病害虫防除技術センター（2024）：令和6年度病害虫発生予察技術情報第4号
- 横浜植物防疫所（2004）：植物防疫病害虫情報 第74号 P.6



図1 セグロウリミバエ成虫



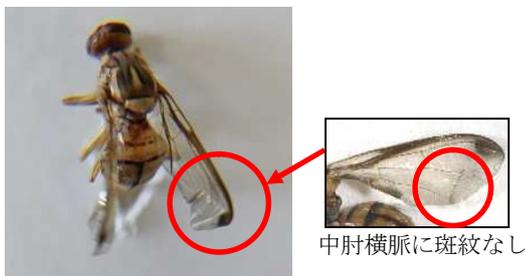
図2 頭部
(写真提供：門司植物防疫所名瀬支所)



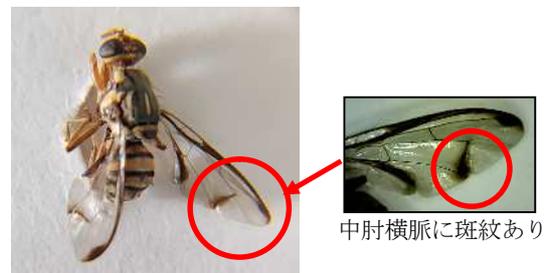
図3 胸背部



図4 腹部



セグロウリミバエ



ミスジミバエ

図5 セグロウリミバエとミスジミバエの比較
(セグロウリミバエの翅の拡大写真は門司植物防疫所名瀬支所提供)